

令和元年度

学校関係者評価報告書

令和2年3月

独立行政法人国立病院機構

都城医療センター附属看護学校

平成 19 年 10 月学校教育法施行規則改正により「自己評価」の義務化と「学校関係者評価」の努力義務化が規定された。

本校ではこれまで、自己評価に取り組み、国立病院機構附属養成所間での学校評価を実施してきたが、今年度から自己評価結果の客観性と透明性を高め、本校と密接に関係する方々との理解促進や協力連携による学校運営の改善を図ることを目的に、学校関係者評価を実施したので報告する。

1.学校関係者評価委員会

1)学校関係者評価委員

- 小川淳子（学校法人日南学園日南看護専門学校校長）
- 中山秋子（一般社団法人藤元メディカルシステム藤元病院看護部長）
- 小川千才（同窓会白埴会副会長）
- 行田典子（同窓会白埴会副会長）
- 水元篤子（在校生保護者）

2)事務局

- 冷牟田浩司（都城医療センター附属看護学校学校長）
- 山中真弓（都城医療センター附属看護学校教育主事）
- 草原麻紀（都城医療センター附属看護学校学科調整教員）
- 高野千絵（都城医療センター附属看護学校実習調整教員）

2.評価対象期間

自：平成 31 年 4 月 1 日

至：令和 2 年 3 月 31 日

3.実施方法及び公表

学校で取り組んだ自己評価を「自己評価結果」として冊子にまとめ、学校関係者評価委員に事務局より配布・説明を行った。学校関係者評価委員会にて、評価基準に基づき評価項目ごとに評価を実施した。その結果を報告書としてまとめ、学校ホームページにて公表する。

4.評価項目及び評価基準

1)評価項目

- (1)重点目標
- (2)教育理念
- (3)学校運営
- (4)教育活動

- (5)学修成果
- (6)学生支援
- (7)教育環境
- (8)生徒の受入れ募集
- (9)法令等の遵守
- (10)社会貢献・地域貢献

2)評価基準

- ・適切(実施)
- ・ほぼ適切(概ね実施)
- ・普通(問題や課題があるが一通り実施)
- ・やや不適切(少し実施)
- ・不適切(実施していない)

5.評価結果

項目 1 重点目標 評価 適切

・目標設定・取り組み計画は適切であり、計画通り取りくみ、課題が明確に示されている。

項目 2 教育理念 評価 適切

- ・教育理念のもと、教育目的・目標、学年別到達目標を具体的に定め取り組まれている。
- ・学生が教育理念をどれほど把握しているかは疑問もあるが、教育目的・目標、学年別到達目標をもとに、各クラスで話し合い、年間の目標を設定して、年度末に自己評価に取り組んでおり、教員もその到達に向け、様々な取り組みを行っている。

項目 3 学校運営 評価 適切

- ・規程が整えられている。
- ・丁寧な会議が行われているが、メール会議の活用等により時間短縮や会議の効率化が図られている。

項目 4 教育活動 評価 普通

- ・学生による学校評価で「学科教育活動」の「わかりやすい授業が多い」が4点満点中2.58点と36項目中最低の得点であった。
- ・授業過程評価は全時間終了後に行われているが、全時間終了後では、即応性に欠け、受講生へのフィードバックが次年度になってしまい、充分でない。受講ごとに直接講師とのやり取りが行えるシステムづくりが望まれる。

項目 5 学修成果 評価 適切

- ・看護師国家試験の合格率は7年連続100%である。
- ・平成26年度の卒業率が低いが、県の報告によると、看護学校の学生の1割は中途退学するという現状の中で、中途退学者割合は少ない。

項目 6 学生支援 評価 普通

- ・保護者との連携・連絡体制はあるものの、気がかりな学生への密な指導・関わりが他学生の不満につながったり、学校行事等連絡や学生の様子を保護者が把握する機会が少ないと感じられたりする現状がある。支援や連携の機会をより広く細やかにしていく方策が必要である。

項目 7 教育環境 評価 普通

- ・看護師養成所規程指導ガイドラインはクリアしているものの、変化する社会の動向に則して、図書を購入し、教育環境を充実させていく必要がある。

項目 8 生徒の受入れ募集 評価 適切

- ・卒業高校へ在校生の近況報告・本校紹介を送ったり、オープンキャンパスを年3回行ったりなどして、広く地域へ情報発信している。

項目 9 法令等の遵守 評価 適切

- ・教員による学校評価として、自己評価の実施、問題点の改善に努めている。
- ・法令等に則って、文書の保存・取り扱いなど適切に行っている。

項目 10 社会貢献・地域貢献 評価 適切

- ・宮崎県が実施している実習指導者講習会の教員への講師要請に対し、大変協力的である。
- ・学生ボランティアの要請は少ないものの、要請に対してはほとんど参加している。

6.総括

10項目中7項目が「適切」の評価であり、「普通」が3項目であった。このことから以下の3点の課題が明確になった。

- ①授業の進度の途中で、学生が講師に対して意見や質問しやすい体制を整え、「わかりやすい授業」への教育活動の改善
 - ②保護者との連携体制の改善に取り組み、学生支援の強化
 - ③図書を充実し、教育環境の改善
- 令和2年度は、課題に対する具体策を計画し取り組んでいきたい。

令和元年度 自己評価結果

